

# 肥満児出現率9.5%に改善

15年度

## 運動・食育県が事業報告

県は23日、「保育所発！子ども元気スリムプラン」事業（検討委員長・吉池信男県立保健大教授）の全体報告会を青森市のリンクステーションホール青森で開いた。2015年度（10～1月測定）の本県の肥満傾向児（3～5歳）の出現率は9・52%で、14年度（11～3月測定）の10・76%より改善。地域別では、むつ地域が13・14%と最多だった。

（鳥谷部知子）

リズムノリノリ♪みるみるスリム?



音楽に合わせて体操を実践する吉池委員長（右から2人目）ら

同事業では、県内全保育所から身長・体重の測定結果の提供を依頼するなどして肥満傾向を調べたほか、運動・食育などを通して肥満予防を試みる保育プログラムを実施。

15年度の地域別肥満傾向児出現率（肥満度15%以上）は、最多のむつに続いて、上十三（10・58%）、三八（9・86%）、東青（9・26%）、西北五（8・92%）、津軽南（8・26%）の順だった。

また、県内の保育関係者が、歩数計を用いた運動を推進する活動、食事をよくかむ教育、野菜を多く取り食事バランスを良くする教

育の3プログラムの成果を報告。いずれも効果や改善が見られたと発表した。

吉池委員長は、県内76保育園に入所している4～5歳児約2千人を対象に行ったアンケート結果を解説。

「インスタントラーメンを週1回以上食べる」と回答したのは、県平均が10・9%で、むつが15・9%で最多。「お菓子を毎日1回以上食べる」は全県平均42・4%に対し、津軽南が50・4%で最多だった。

吉池氏は「祖父母が近隣住まい、または同居している幼児は、間食や複数回の夕食を取るなど肥満の傾向が強い。祖父母も孫の食生活に配慮が必要」と指摘した。

東奥日報

2016年2月24日(水)掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。